

論 文

# 意識障害患者に対する経口援助の現状

— 経口訓練開始から5回目までの経口援助場面を振り返って —

西谷 優子・中野 節子・竹内 千賀

渡辺 明美・坂尾 雅子

(金沢大学医学部附属病院)

## Encouraging the Oral Food Intake as a Means of Improving Patients' Conscious Levels

— A Review of Nursing Records for  
the First 5 Sessions of Oral Feeding —

Yuko Nisitani, Setsuko Nakano, Chika Takeuchi,  
Akemi Watanabe and Masako Sakao

Kanazawa University Hospital

### 要 旨

私たちは、意識障害患者の意識状態を、より改善する手段として食べる行為も忘れてはならないと考えている。意識障害患者にとって食べる行為は、看護婦の援助が大いに関与してくる。そこで、看護婦の経口援助場面における援助や評価について、現状を明らかにすることを目的に本研究を行った。

意識障害を伴う患者で、病院食の経口摂取可能に至った患者19名を対象とし、経口訓練開始を1回目とし、以後5回目までの経口援助場面を看護記録より抽出し検討した。

その結果、私たちは、経口摂取確立に向けて評価していることが多い状況が明らかになった。また、食べる行為については、次回の経口援助に活用されるような評価が少なく、このことが、患者の食べる行為を進めていくうえで問題となっていた。しかし、具体的な援助内容を分析したことにより、その解決方法が示唆された。